全国児童養護施設
退所者トラッキング調査2021
------ 結果概要------

2021年10月
認定NPO法人ブリッジフォースマイル

調査要旨

- 調査の目的

  本調査は、全国の児童養護施設を退所した人の進学や就労の状況、施設の自立支援の現状などを把握し、自立に向けた支援の課題を明らかにすることを目的として実施したものです。

- 調査内容

  施設生活経験者※のうち、次頁の調査対象条件を満たす人について、退所年や高校卒業の有無とその後の進路を調べました。また「退所時」もしくは「18歳の3月末時点」と、「現在」において、同居者、就労状況、施設と本人とのコミュニケーション手段や頻度、利用経験のある支援制度、メンタル面での課題、親族との関係などを比較できるように調査項目を設定しました。また今年は各施設におけるアフターケアの現状と課題も合わせて聴取しました。

  なお、本調査は退所者一人ひとりの状況を、1年に1度、10年間継続して調べるトラッキング調査と位置付けています。次年度以降は前年に登録した退所者については、「現在」の状況のみの回答を回収します。

※施設生活経験者：以下全て

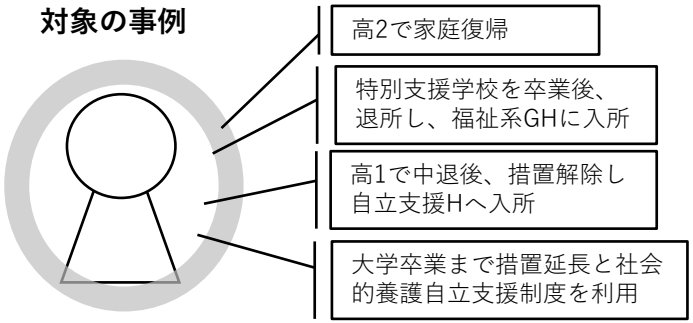
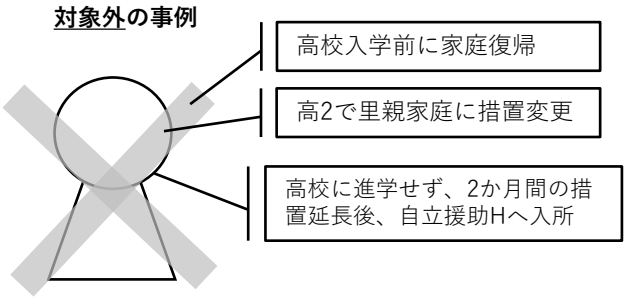
・施設退所者（措置解除し、かつ施設に住んでいない）

・措置延長者（施設を退所していない）

・社会的養護自立支援事業利用者（施設を退所していない）

© Bridge for Smile. All Rights Reserved

調査要旨

調査期間	2021年6月1日(火)～7月5日(木)
調査対象	ブリッジフォースマイルがメールアドレスを把握している全国の児童養護施設（552件）に、以下の調査対象者についての回答を依頼 ① 2015年度～2021年度 に児童養護施設を退所した人 ② ①のうち、以下の2条件を両方満たす人 1．高校生（15歳の4月～18歳の3月）の時、児童養護施設に入所していた人 ※中学卒業の3月までに措置解除した人は含まない 2．次のいずれかを満たす人 -18歳の3月までに措置解除された人（措置変更によって退所した人は含まない） -18歳の3月で措置解除された人 -18歳の3月で措置延長し施設に入所していた人  
回答者	児童養護施設の施設長またはアフターケアを管理/統括する職員
有効回答数	児童養護施設数：132件（回答率　24%）/ 退所者数：2,016人
調査主体	認定NPO法人　ブリッジフォースマイル

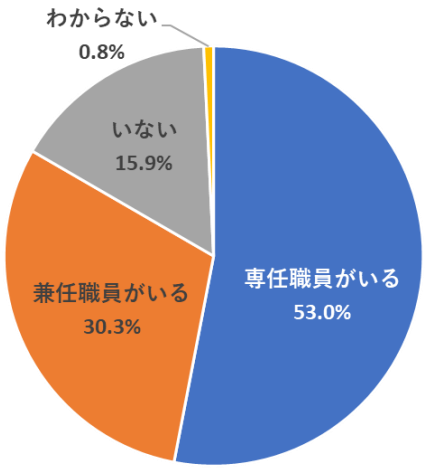
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

1. 施設のアフターケアの実態

アフターケア担当職員がいる施設の割合は83.3%
経費使途や支援体制には、施設間格差も

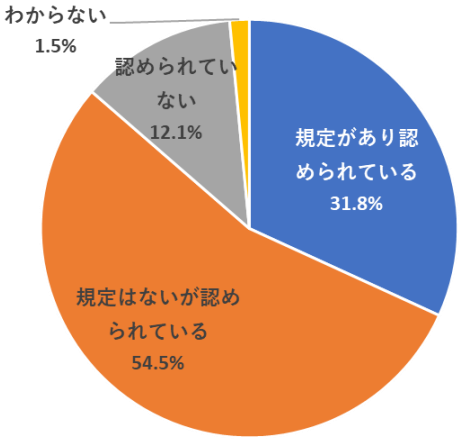
- アフターケアの必要性が認識され、行政から予算がつくようになったこともあり、アフターケア専任の職員を置く施設が半数超えています。兼任の職員も合わせると、83.3%の施設がアフターケア担当職員を置いています。また、アフターケアにかかる経費についても、規定が整っている施設は31.8%あり、規定は定められていないが経費を認めるところを合わせると、86.3%がアフターケアにかかる経費を施設が負担しています。
- 一方、経費として認められる使途はバラツキがあり、施設毎にアフターケアの経費や支援体制について模索している様子がみられます。施設のサポート体制の在り方が、退所者が困難な状況になった時に出身施設を頼るかどうかに影響すると考えられます。

アフターケア専任/兼任職員の有無



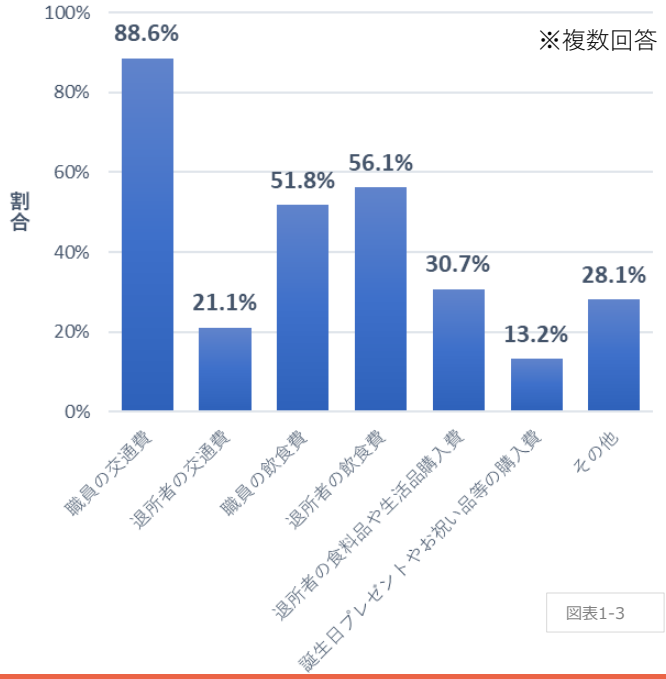
図表1-1
(概要用)

アフターケア経費の状況



図表1-2

アフターケア経費の使途



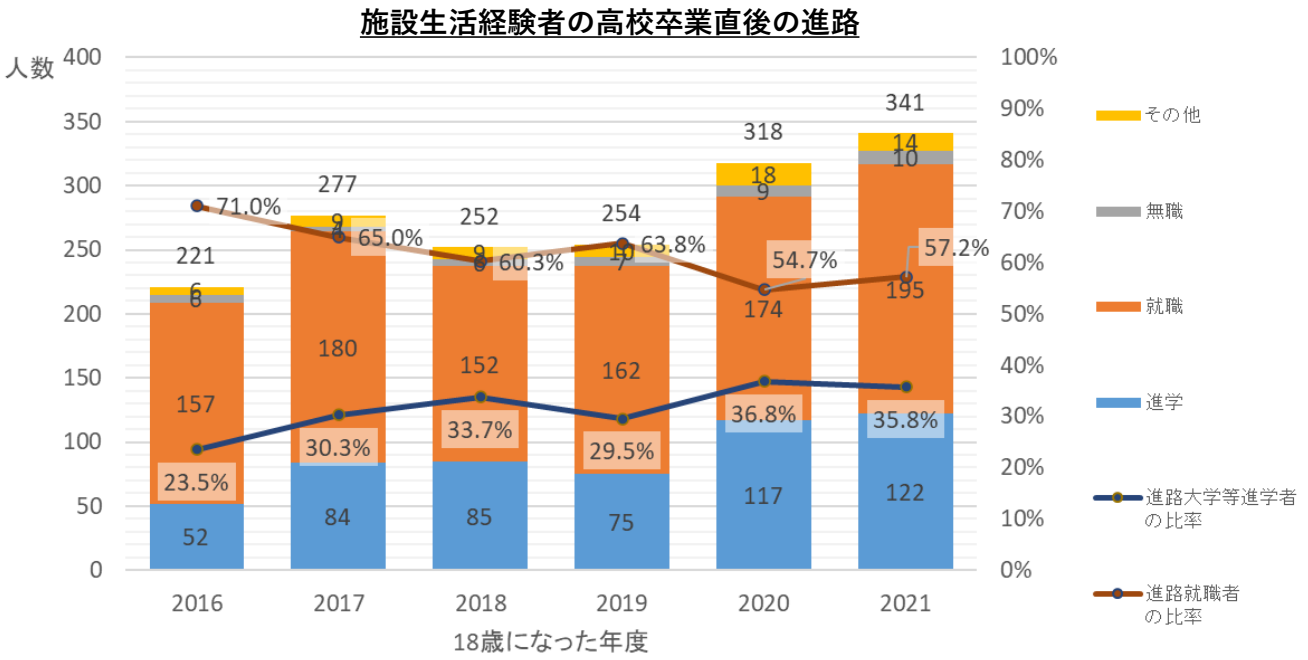
図表1-3

© Bridge for Smile. All Rights Reserved

2. 高校卒業後の進路

大学・専門学校等への進学率は退所者全体の35.8%
5年前と比べると進学率は10ポイント以上増加

- 2021年4月1日現在満18歳の施設生活経験者の高校卒業直後の進路は、進学が35.8%で就職が57.2%でした。2016年度の就職者の割合は70%以上でしたが、その割合は減り続け、直近では60%以下となっています。
- 進学率算出方法を文部科学省の調査に合わせ、通信制高校卒業/高卒認定/特別支援学校卒業を除いた場合の進学率は、44.7%でした。



図表2-3

※施設生活経験者の進学率算出方法を文部科学省調査に合わせた場合

進路大学等進学者（通信制・高卒認定・特別支援学校を除く）	2016(n=160)	2017(n=208)	2018(n=188)	2019(n=181)	2020(n=243)	2021(n=257)
	27.5%	37.5%	42.6%	36.5%	46.5%	44.7%

図表3-1（概要用）

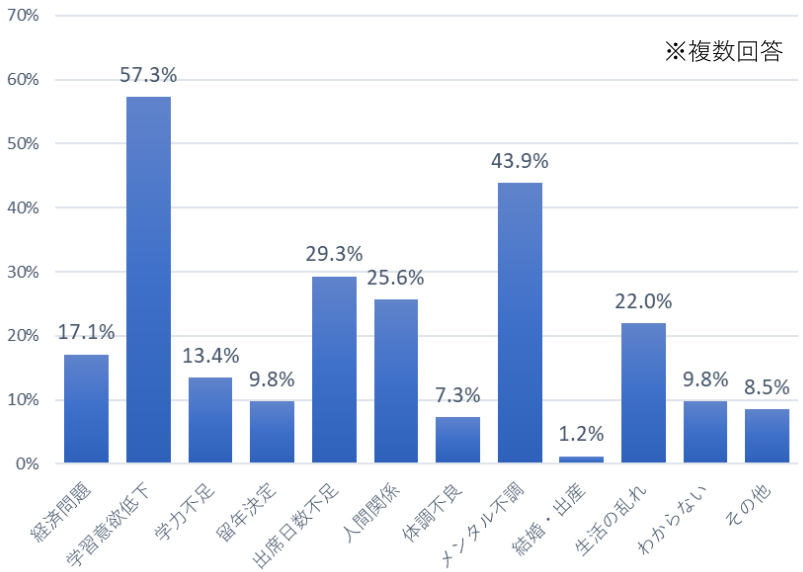
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

3. 進学先中退者の状況

中退理由は経済問題よりも、学習意欲低下/メンタル不調等の気持ちの問題
中退者が正社員として就労している割合は14.3%で、卒業者の1/4以下

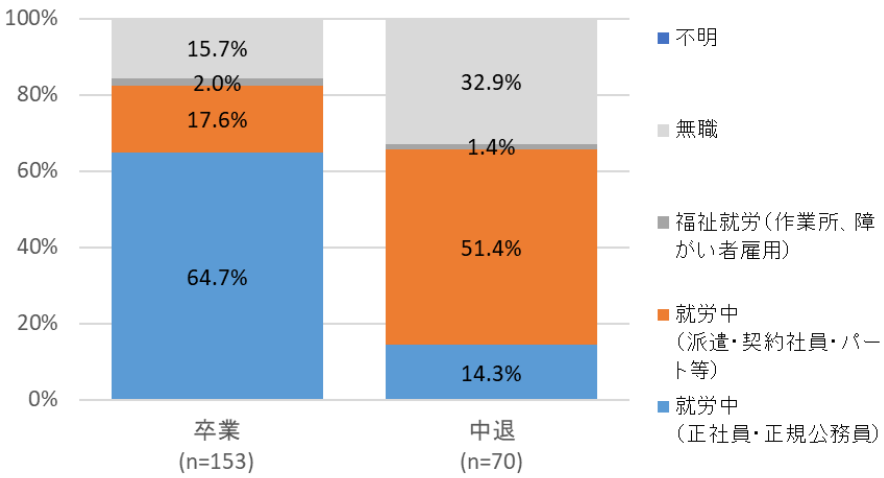
- 高校卒業後に進学した学校を中退した理由を見ると、「学習意欲低下」が57.3%で最も多く、次いで「メンタル不調」が43.9%となっており、意欲の問題で中退に至るケースが多いことがわかりました。特にこの１～2年は新型コロナ禍による影響が大きいと考えられます。
- 中退後に安定就労と言われる正社員・正規公務員で就労している人は14.3%に留まります。また中退者は現在無職の割合が32.9%と卒業者（15.7%）の倍以上となっており、中退者への一層の就労支援が求められます。

進学先中退の理由



図表3-4
(概要用)

進学先を卒業または中退した施設生活経験者の現状
（2021年6月現在）



図表3-6
(概要用)

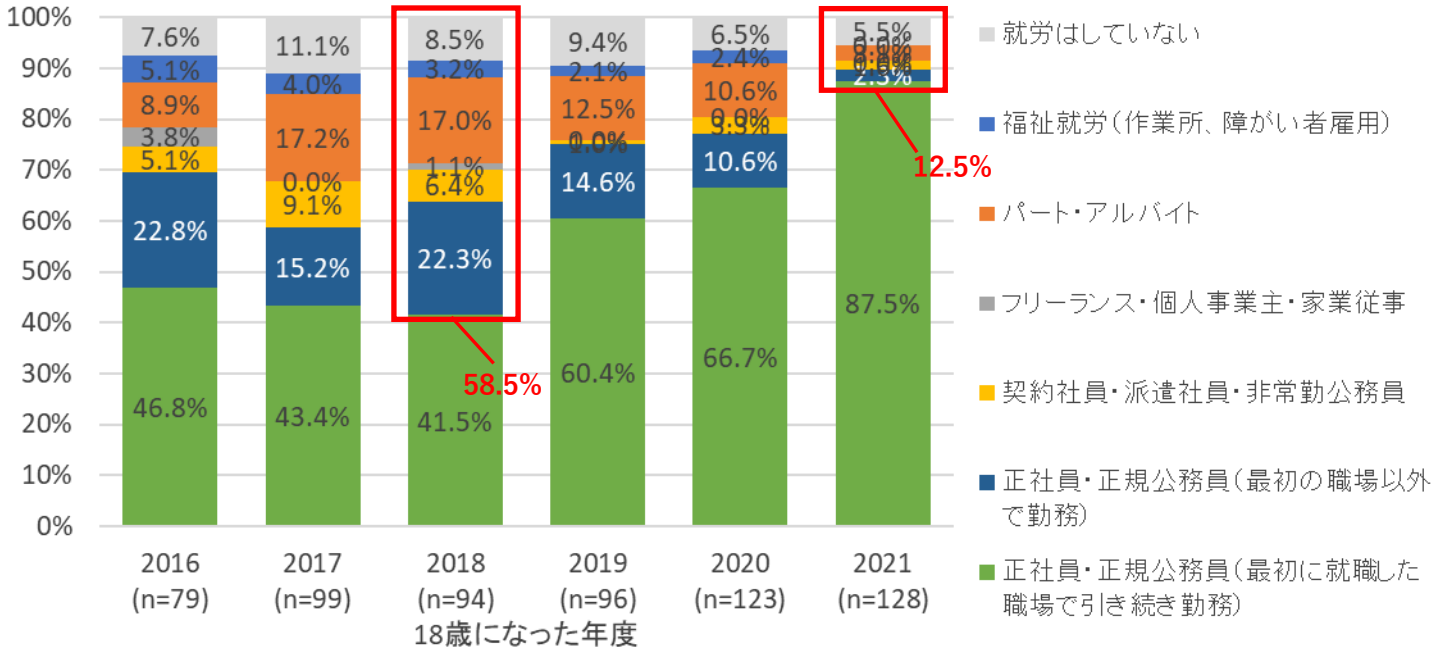
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

4. 高校卒業後正社員就労者の離職率

高校卒業直後の正社員就労率は高いが、離職率も高い
離職後、無職の割合は1割弱

- 高校卒業直後に就職する施設生活経験者の多くが、正社員・正規公務員や福祉就労といった安定した雇用環境で働き始めます。しかし高校卒業直後に正社員として就職しても、2021年度入社の12.5%が3カ月で離職しており、更に3年3カ月後となる2018年度入社の退所者は、58.5%が離職しています。
- 離職後は、就労していない人が1割弱、パート/アルバイト/契約社員といった不安定な雇用形態の人が1～3割程度います。

高校卒業直後に正社員・正規公務員として就労した施設生活経験者の、2021年6月現在の雇用状況



図表4-4

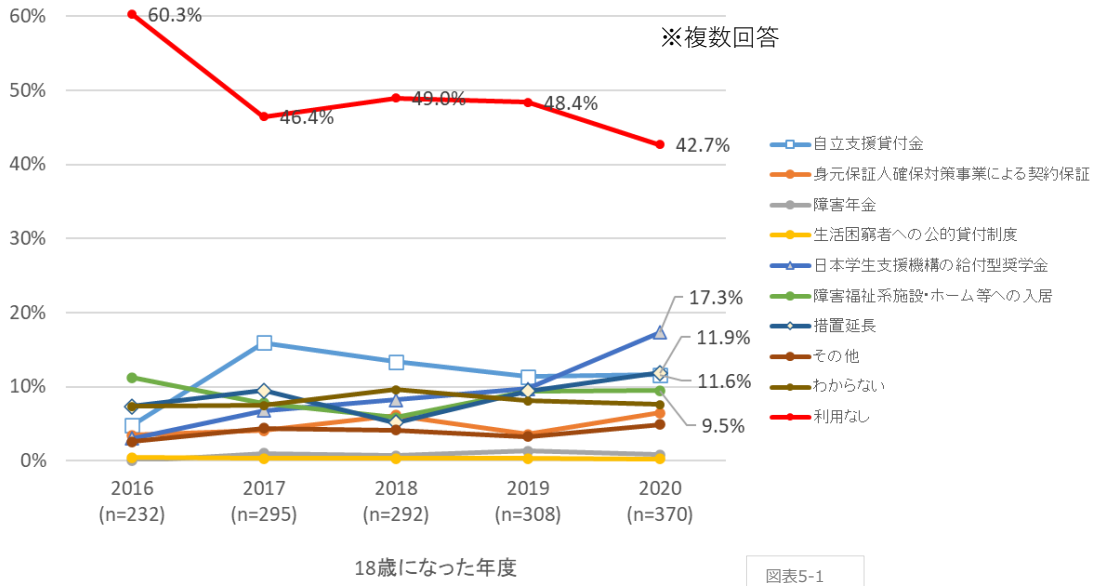
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

6. 支援制度の利用状況

進路選択時(18歳時点)に利用する支援制度は拡大
怪我や病気に備える健康保険への加入促進が求められる

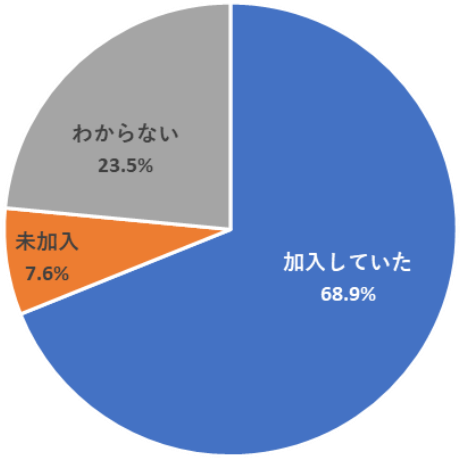
- 18歳の進路選択時(19歳になる年度の4月)に、施設生活経験者の6割弱が何かしらかの支援制度を利用しています。18歳という年齢で一斉に社会に出されるのではなく、一人一人の状況に応じて緩やかに自立を支える状況になりつつあります。
- 一方、進路選択時に施設生活経験者が健康保険に未加入だった割合が7.6%、加入しているかわからないが23.5%となっています。怪我や病気に備える健康保険への加入は退所者の自立には必要です。施設職員には加入状況の把握と、未加入者への加入手続きの促しが期待されます。

進路選択時における支援制度の利用状況



図表5-1
(概要用)

19歳になる年度の4月の、健康保険の加入状況



図表5-3

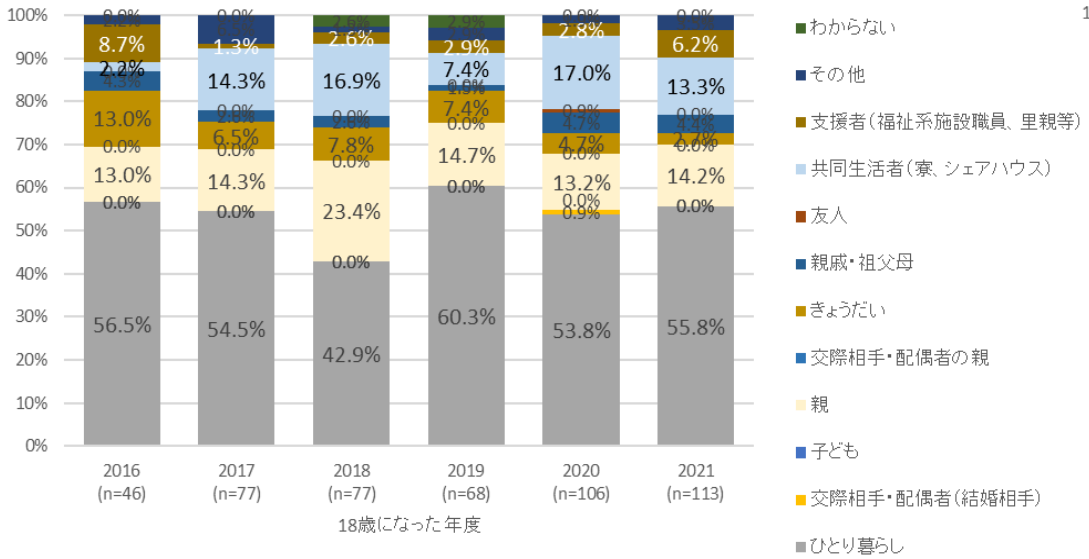
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

7. 退所時の同居者（住まい）

退所後の生活は一人暮らしが最多。親との同居は14％程度
一人暮らしは進学者の方が、支援者との同居は就職者の方が多い

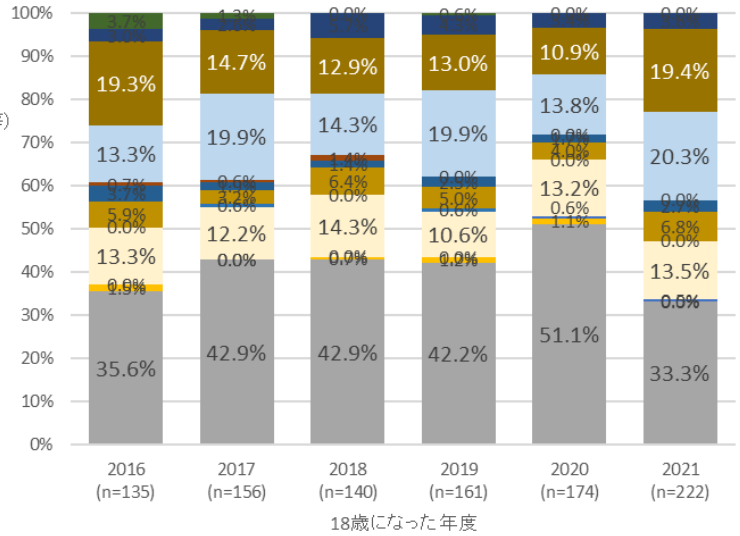
- 施設退所後の最初の住まいを、進学者と就職者で分けて見たところ、いずれも最も割合が高いのは一人暮らしです。ただし、その割合は進学者がほとんどの年度で50％以上なのに対し、就職者は半数を下回っている年度がほとんどです。
- 施設職員等の支援者と住んでいる割合は、就職者がいずれの年度も10％を超えているのに対し、進学者は10％未満でした。また、職場の寮を含む共同生活の割合は、就職者の方が高いです。

進路大学等進学者の、退所時の同居者（住まい）



図表6-1
（概要用）

進路就職者の、退所時の同居者（住まい）



図表6-2
（概要用）

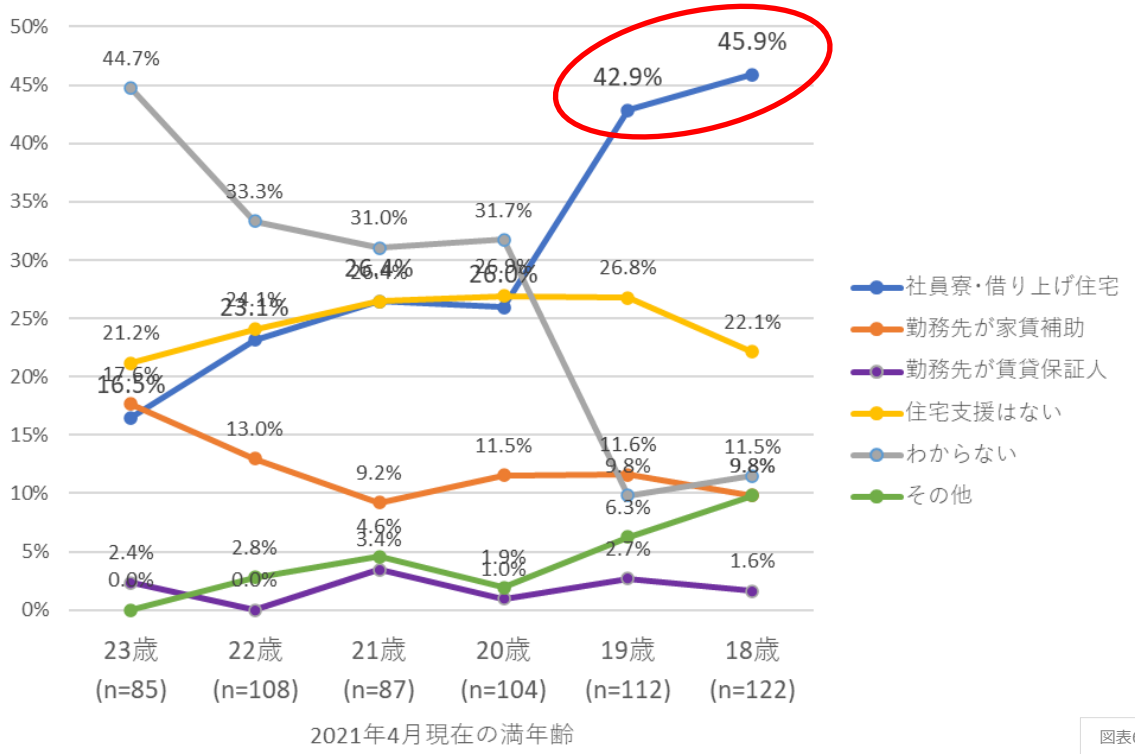
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

8. 勤務先からの住宅支援

高校卒業後正社員就労した人の半数近くが、社員寮等に住んでいる
離職した場合に、住まいも失うリスクが高い

- 現在正社員・正規公務員として就労している人が、勤務先からどのような住宅支援を受けているかを見ると、2021年4月現在18歳または19歳だった人のうち、社員寮や借り上げ住宅に住む割合は、半数近い割合でした。高校卒業後すぐに正社員就労する人は、住宅支援を受けられる就労先を優先して選んでいる可能性が高いです。
- こうした福利厚生は、経済的に厳しい退所者にとってありがたい一方で、退所者の離職率の高さを考えると、仕事を辞めた時に、住まいも同時に失うリスクと隣り合わせであることを、改めて認識すべきと考えます。

現在正社員就労者の勤務先からの住宅支援状況



図表6-6

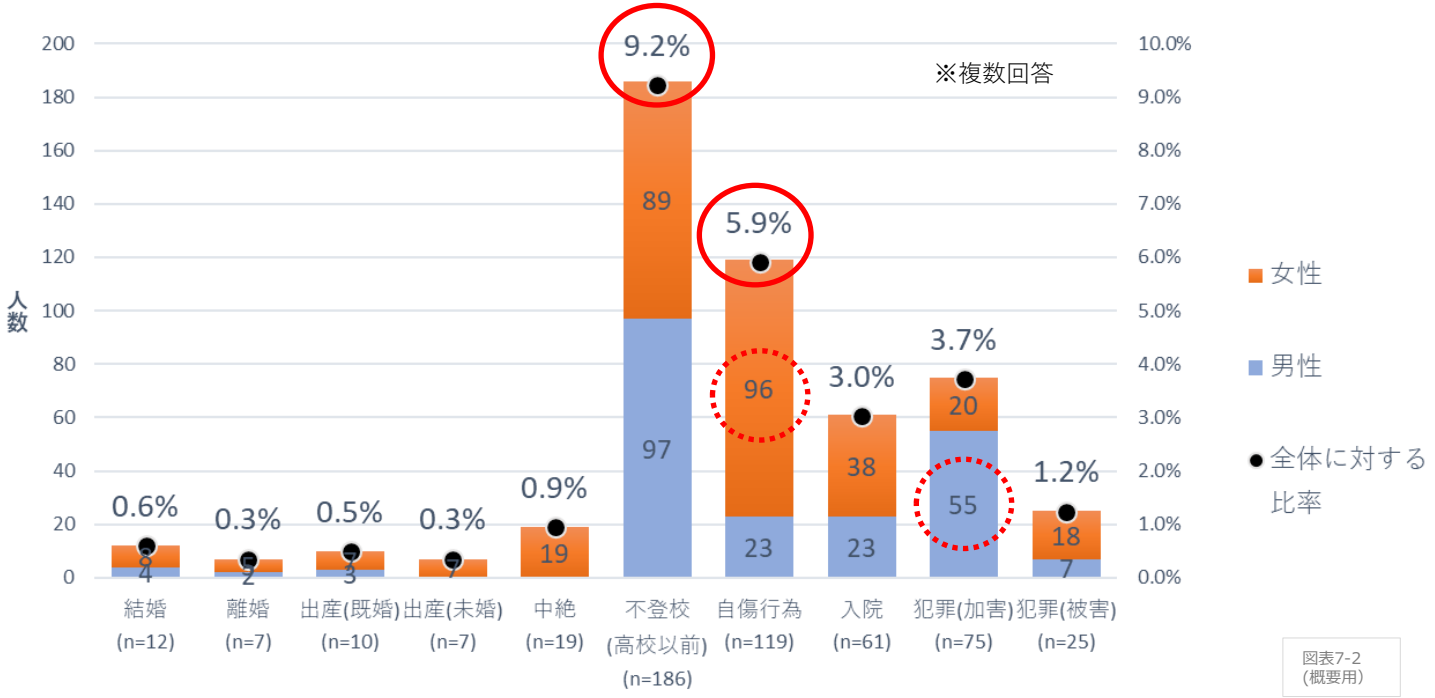
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

9. 退所前の特筆すべき出来事

施設生活経験者のうち10%近くが不登校の経験あり
自傷行為の経験は約6%

- 進路選択時である18歳の3月より前（措置中、措置前含む）において経験した、特筆すべき出来事を調べたところ、施設生活経験者のうち9.2%に不登校の経験がありました。さらに5.9%は、自傷行為の経験がありました。
- それぞれの経験の男女別の人数をみると、自傷行為は、8割以上が女性でした。犯罪行為（加害）は、7割以上が男性でした。

18歳の3月以前（措置中、措置前含む）の出来事



図表7-2
（概要用）

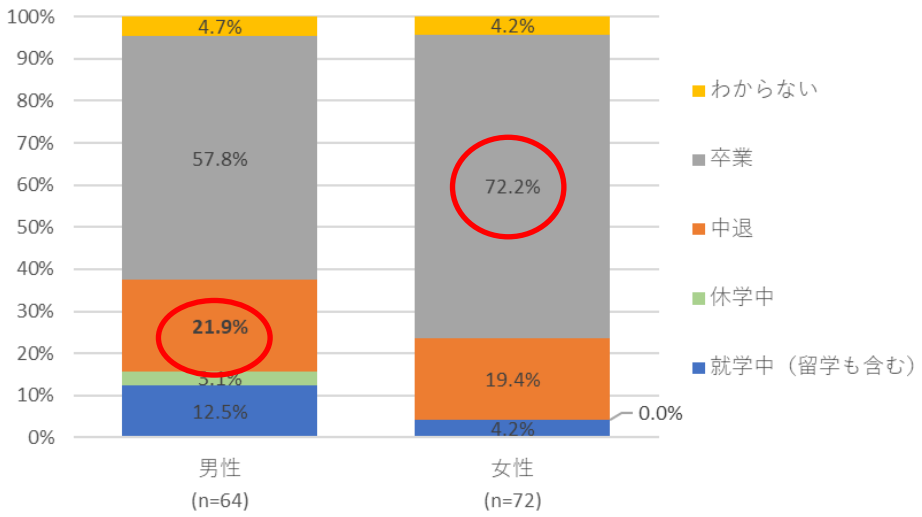
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

10. 性別による進学後と就労の状況の違い

進学先を中退せず卒業する割合は、女性の方が高いが
現在パート・アルバイト就労や無職の割合は、女性の方が高い

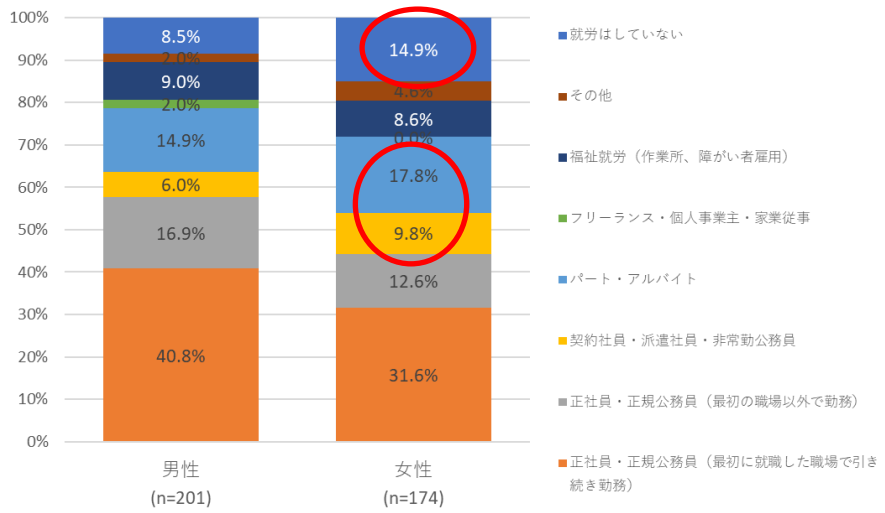
- 進路大学等進学者のうち、18歳年度が2016年度と2017年度の人（高校卒業後2年制や4年制の学校に進学し、留年しなかった場合は卒業しているはずの人）の現在の就学状況を男女別にみると、女性は70％以上が卒業しているのに対し、男性の卒業率は57.8％でした。中退率は男性の方が高く21.9％となっていました。
- 同じく18歳年度が2016年度と2017年度の人の、2021年6月現在の就労状況を男女別にみると、女性は不安定雇用といわれるパート・アルバイト就労が17.8％、契約社員等が9.8％と男性よりも多く、また就労していない割合も男性より多い14.9％となっていました。

現在の進学先卒業中退状況【男女別】
（18歳年度が2016年度と2017年度の退所者）



図表8-3

現在の就労状況【男女別】
（18歳年度が2016年度と2017年度の退所者）
※不明は除く



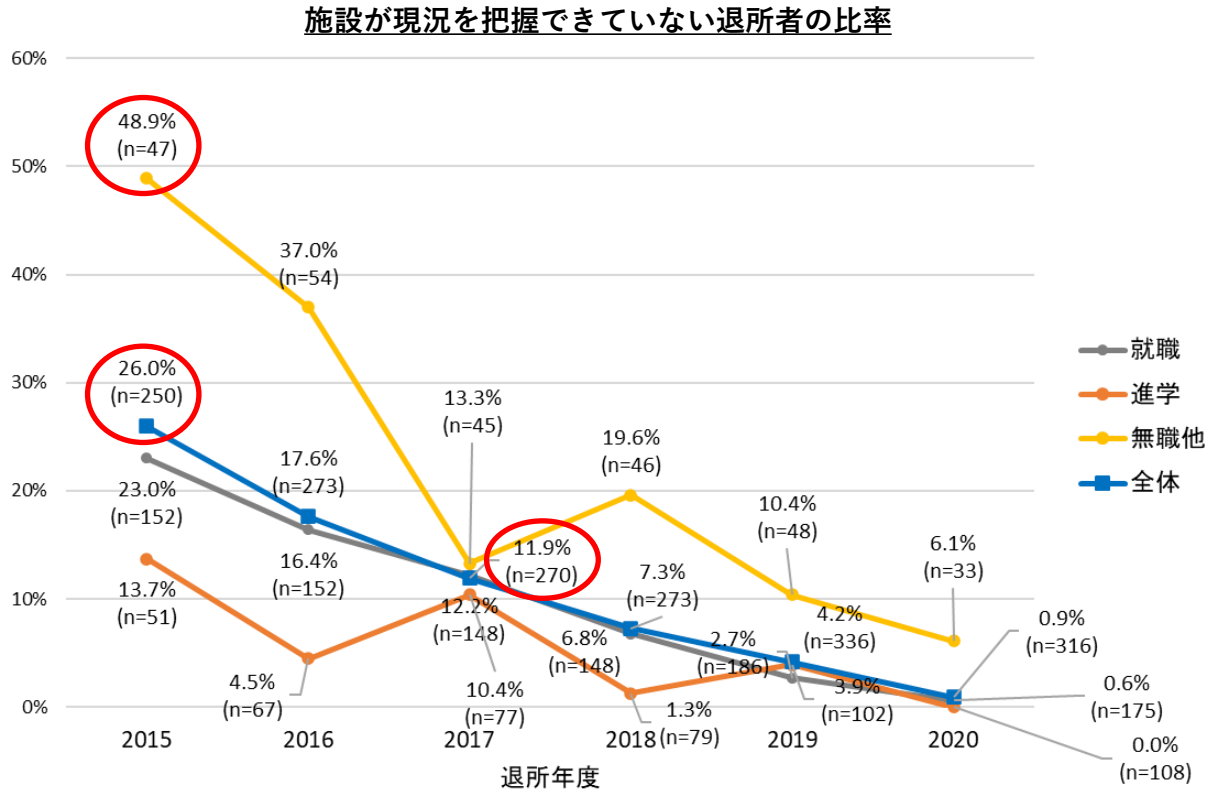
図表8-5

© Bridge for Smile. All Rights Reserved

11. 施設とのコミュニケーション

現況を把握できない退所者は、退所後3年で11.9%、5年で26.0%
高校卒業直後無職でより支援が必要であろう人ほど、連絡がとれない

- 退所から年数が経つほどに現況を把握しづらくなり、全体では退所後3年3カ月で11.9%が、5年3カ月後には26.0%の人の現況が分からない状態です。特に高校卒業卒業直後の進路が「無職他」の場合は現在状況不明の割合が高くなり、退所後5年3カ月後は約半数の48.9%の人と連絡が取れなくなっています。
- 一方、進学者は比較的現況を把握している割合が高いです。理由として奨学金手続き等のやりとりが多いためと考えられます。



図表9-1

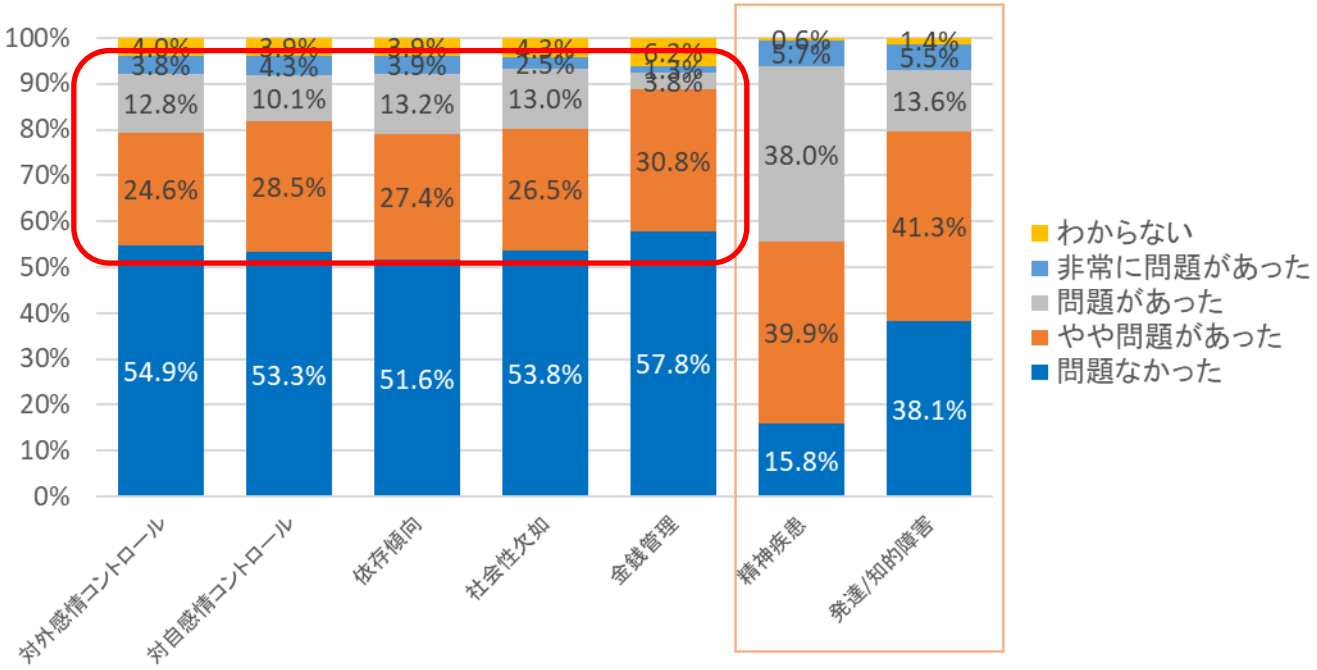
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

12. 施設生活経験者のメンタル面での課題

18歳の3月末時点でメンタル面で問題がある施設生活経験者は40％前後
精神疾患や発達障害等の診断ありまたは疑いありの場合は、より割合が高い

- 施設生活経験者の18歳の3月末時点での問題行動の程度を、職員の主観で回答してもらったところ、「問題なかった」は各項目50～60％で、40％前後の割合で何らかの問題があったという結果でした。
- 「精神疾患」と「発達障害/知的障害」は、診断がでているか、診断は出ていないが疑わしい場合（「精神疾患」は全体の19％、「発達障害/知的障害」は全体の33％）のみ、問題行動の程度を回答してもらいましたが、「発達障害/知的障害」において、約60％が何らかの問題があったとの結果になりました。

施設生活経験者全体の問題傾向（18歳の3月末時点）



図表7-5
概要用

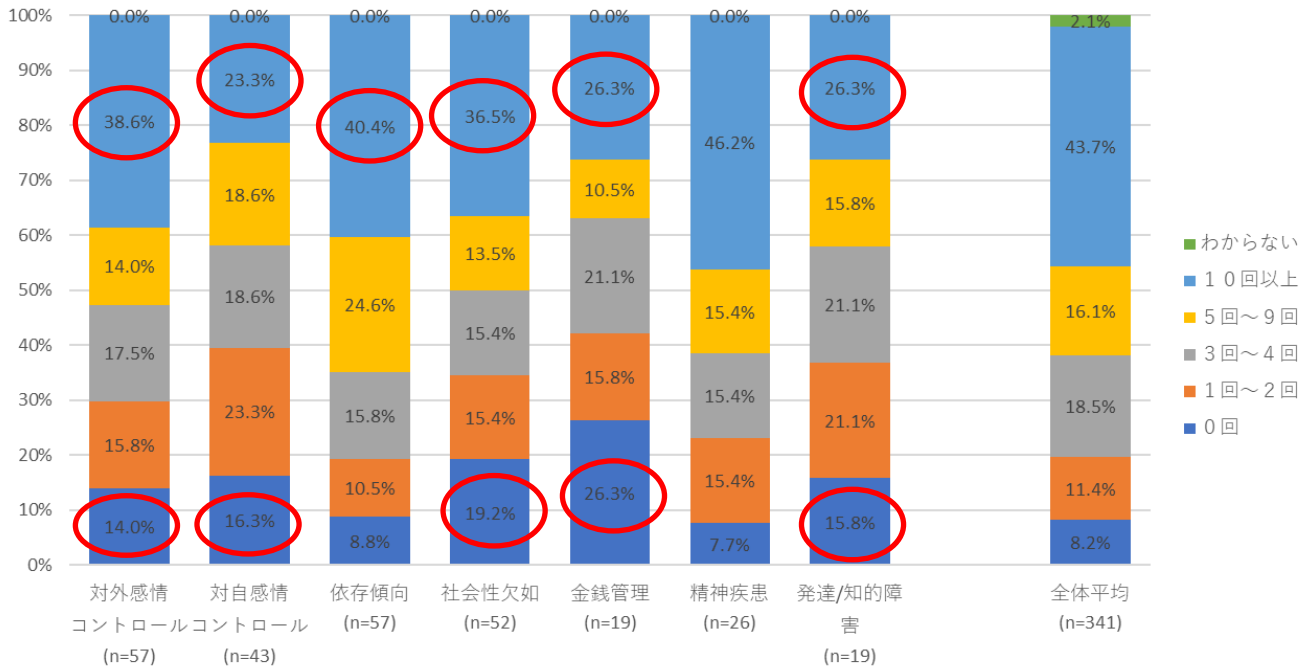
© Bridge for Smile. All Rights Reserved

13. メンタル課題と施設との連絡頻度

メンタル面で問題がある退所者への連絡頻度は平均より低い場合が多い
課題をかかえる退所者にこそ手厚い支援を

- 比較的最近退所したので連絡先を把握していると思われる、18歳年度が2020年の人に絞ってみると、全体平均で「連絡回数10回以上」が43.7％なのに対し、各メンタル課題で問題を抱える退所者で、10回以上の連絡が平均を上回るのは、「精神疾患」の場合だけでした。また「連絡回数0回」の割合は多くのメンタル課題で全体平均を上回っていました。
- 課題を抱えている退所者にこそ手厚い支援が必要ですが、施設職員のコミュニケーション頻度を見ても、十分な支援ができてない状況が考えられます。

18歳の3月末時点でメンタル面で問題があった退所者との連絡頻度
（18歳年度が2020年度の退所者のみ）



図表10-2
概要用

※各メンタル課題において「非常に問題があった」または「問題があった」退所者とのコミュニケーション頻度

© Bridge for Smile. All Rights Reserved

本調査の実施にあたり、ご協力いただいた児童養護施設の職員の皆様に厚く御礼を申し上げます。日々子どもたちへの支援でお忙しい中でご回答くださった貴重なデータを分析することにより、初めて知る事実、改めて確認できた事実がありました。

私たちはこれからも、退所者の自立支援、アフターケアの環境が一歩でも前に進めるよう、これからも尽力してまいります。

お問い合わせ

認定NPO法人ブリッジフォースマイル
〒100-8228
東京都千代田区大手町2-6-2　パソナグループ内
Email:info@b4s.jp
URL：http://www.b4s.jp